

口力岬の風 (ポルトガル)

千葉県支部 高垣むつ子

平成31年4月、ドイツの両手を広げて深呼吸。冷たく強い風を体で受け止めながら、見渡す限りの紺碧の海を眺める。その先は北へ。初めての地にワクワクしながら、空港からタクシーで宿(アパートメント)へ。カーナビが頼りのドライブだった。散々迷った挙句、適当なところで降りた。仕方なく住所便りに宿を探すが、受付は宿と離れたところがあり、宿に案内されてようやく到着。リスボン到着4日目に電車で行き、そこから市バスまで行き、そこから市バスでユーラシア大陸最西端の口力岬へ行った。

道は舗装されているとはいえず、細い道が続く。何度目をつむつたか知らない。ようやく到着。広々とした大地が目の前に広がる。想像を遙かに超える絶景。期待していなかった。感動は10倍だった。思わず迷うことはありません。

四方八方ドイツ

東京都支部 村上まゆみ

情報がデジタル化されマルチメディアによって伝達される時代となりました。長年、紙の書籍や新聞に親しんで来た私は、一気にデジタル化に適合できず、印刷メディアの行く末が気になります。写真雑誌『ライフ』のミレニウム号がこの千年紀で世界を変えた百の出来事の中に「グーテンベルクによる1455年の聖書印刷を選

んでいた記憶があります。その意味を理解したいと思ひ、昨年4月のドイツ旅行の折にマインツのグーテンベルク博物館を訪ねて見ました。彼の生涯は謎が多く、グーテンベルク関連文書から推測されています。1400年頃生まれ、1468年2月3日に死亡しました。生地マインツは大司教領であり、ライン川とマイ

第二の故郷・湘南藤沢

神奈川県支部 田添 正



で農業も行われている。JR、小田急、江ノ電、相鉄などが乗り入れ、横浜・東京への通勤圏である。また、羽田・成田・鎌倉・小田原・熱海・伊豆・富士山などへの交通の便も良く地理的に恵まれた環境にある。市内には、4つの大学があり文教都市の要素もある。

昭和39(1964)年4月、東京オリンピックの年に長崎県西海市の寒村・里山から中学を卒業後、神奈川県藤沢市内に就職し、定時制高校に通学・通信制大学で学び、移住して55年になる。藤沢は、大都会ではないが、国内外の観光客でにぎわう江ノ島があり、温暖な気候で北部は自然が豊か

ン川が交わる地にワインの産地として発展しました。大聖堂近くのグーテンベルク博物館の地階で、活版印刷に関する展示と実演を見学しました。彼は葡萄搾り機のプレスを改良して木製の印刷機を作り、一字毎の金属活字を低価格で簡単に製造しました。また印刷インクの付着力を高め、刷り上がり美しくしました。上階の特別室の中央にラテン語の聖書が2部展示されていました。写本ではなく、グーテンベルクの活版印刷による「42行聖書



▲第一回入学式 (昭和24年 法文学部大講堂)



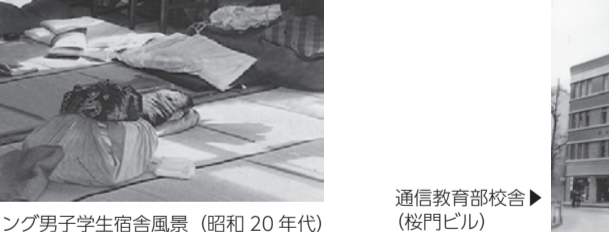
▲第1回夏期スクーリング (昭和24年)

度日本「藤沢に熱視線」という記事が掲載されていた。これは民間の調査会社が全国16万人の20〜69歳の男女を対象に行った「全国地域元気度調査2015」によるもので、地域の元気度で1700自治体中全国一位に選ばれ「市民のプラス評価」が高い街となっている。現在、私が住んでいる善行・西保野・亀井野・石川地区には山林や里山が残

て、新大陸発見や文芸復興の興隆を促しました。技術革新に因る現代の印刷は、コンピュータと写植を組み合わせた電算写植に変化しています。脱グーテンベルクの活版印刷ですが、その歴史的役割は大きく、世界と時代を変えてきました。情報のデジタル化とネットワーク化に適合して



▲第一回卒業式 (昭和28年 法文学部大講堂)



通信教育部校舎 (校門ビル)



▲通信教育部校舎 (校門ビル)



▲夏期スクーリング男子学生宿舎風景 (昭和20年代)

玉井孝丸

日本大学通信教育部校友会 東京都支部 監事
〒167-0033 東京都杉並区清水三-1-16 167-0033
電話 090-8770-1333

- 日本大学通信教育部校友会 山形県支部
顧問 小加藤 善一
顧問 大塚 芳一
顧問 佐々木 勝一
支部長 山本 孝一
副支部長 松本 吉一
副支部長 井上 静一
副支部長 山口 雄一
副支部長 藤原 好一
副支部長 柏原 静一
副支部長 三好 好一

吉澤幸夫

日本大学通信教育部校友会 事務局次長
〒114-0002 東京都北区王子三-1-17 (特)サンアメニティ

明けましておめでとう
ありがとうございます
広報編集担当
師田 袈裟茂
藤井 友和
橋本 アサ子
橋本 立子
村上 まゆみ

編集後記
校友の皆様には、校友会の活動にご協力を賜り、有難うございます。今号も各支部校友会よりの投稿が多く嬉しく思います。毎回継続して投稿される方、各支部の活動報告、校友の話題など、興味のある記事が多く見受けられます。有難く感謝申し上げます。
(文責 師田 袈裟茂)